



学校便り いはぎ

令和6年度 No. 9
発行：令和7年1月8日
東村山市立萩山小学校
TEL 042-391-8116
FAX 042-397-5405

萩のように、山のように やさしく、つよい子供たちの成長を願って

校長 鈴木 賢次

令和7年がスタートしました。旧年中は学校の教育活動にご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございました。能登半島地震から1年が経ち、報道等で流れる被災地の状況を見るにつけ、現地の復興は道半ばであることを認識させられました。穏やかなお正月を過ごせることに対する感謝の思いを強くするとともに、今年一年、子供たちや保護者・地域の皆様、教職員が安全で安心して過ごせますよう、年頭の願いを新たにしました。

さて、先日の学校公開の折にある保護者の方からこんな質問が寄せられました。「教室の黒板の上に飾られている『萩のようにやさしく 山のようにつよく』という文字は誰が書いたの？」問われた教員も答えに窮し、校長のところに確認に来ましたが、恥ずかしながら私にも答えることができませんでした。毎日、目にする教育目標ですが、よく見てみるとその言葉の通り、優しい筆遣いでありながらも芯の強さを感じる素晴らしい書体で書かれています。どなたが書かれたのでしょうか。

答えは、図工の講師を務めている大森先生がご存じでした。各教室に掲示されている教育目標を書いたのは、大森先生の前の前の図工専科だった石田 壽男(いしだ ひさお)先生が、創立40周年(平成12年)を記念して書き残されたものだそうです。石田先生は、図画工作・美術の研究に励まれ、当時の学習指導要領や指導書の作成協力委員としてもご活躍をされた先生で、特に版画をご専門とされ、「-子供が楽しむ-カラーはんがの世界(サクラクレパス出版部)」など著作も多数著されています。教育目標の書もよく見るとどれも全く同じ字体で書かれ、版画で表現されたものと分かります。本校の階段のカラー「上りはオレンジ、下りはメロン」と子供たちに分かりやすいように表現されたのも石田先生によるものとのことです。平成12年当時の児童数は554人だそうで、現在よりも100名以上多い児童が安全に階段を上り下りできるよう工夫されたのでしょう。(ちなみに、本校の児童数は昭和44年の1280人が最高で現在の3倍

近い児童が在籍していたことには驚くばかりです。)石田先生は萩山小学校に在職されていた当時、現職のまま逝去されたとのことですが、25年経った今も本校の大切な財産として石田先生の功績が残されています。

石田先生と同時期に校長を務められていた本校第10代校長の山崎 憲(やまざき けん)先生が、先日12月12日に逝去されました。山崎先生は、土曜講座「萩山ファンクラブ」や子供を守る地域防犯連絡協議会など、萩山小の子供たちになくてはならない取組を保護者や地域の皆様とともに進めて来られました。今でも校庭の一番人気である「築山」を子供たちや保護者、地域の皆様と一緒に築いた先生です。「萩山の子は、萩山の力で」を合言葉に子供の成長を願う大人たちの結び付きを大切にされていました。山崎先生はご退職後、長く「東村山市算数教室」の代表をされており、市内の6年生を対象に、算数の面白さや数学的に物事を捉える楽しさを伝えていらっしました。本校の卒業生の多くも算数教室に参加し、学校では味わえない算数の魅力に胸を躍らせたことでしょう。山崎先生は昨年11月まで算数教室で講師を務められ、あの優しい語り口で澁淵と算数の真の面白さを伝えていたそうです。山崎先生の功績に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

萩山小学校は、教職員や保護者、地域の皆様、そして子供たちなど、多くの先人たちの弛まぬ歩みによって今の学校の姿を形作っています。令和7年も萩山小学校の子供たちの成長のため、教職員一同、精一杯、努めてまいりますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

